

令和元年6月26日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K16660

研究課題名（和文）政治的スキャンダルと権威主義体制の不安定化に関する研究 - マレーシアの事例から

研究課題名（英文）Research on political scandal and stability of the authoritarian regime: A case study of Malaysia

研究代表者

伊賀 司 (Tsukasa, Iga)

京都大学・東南アジア地域研究研究所・特別研究員 (PD)

研究者番号：00608185

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本科学研究を通じて、マレーシアの事例を通じて権威主義体制とスキャンダルとの関係性を考察した。その結果、権威主義体制下での政治的スキャンダルが政治体制の変動につながるには、体制側も含めた政治エリートによる政治的スキャンダルに対するフレーミングの枠組みに大きく左右される一方で、こうしたフレーミングが効果的に機能する前提として、社会運動等による体制外の活動が一定程度の継続性をもって存在していなければならないことがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は権威主義体制と政治的スキャンダルとの関係性について明らかにした研究である。政治的スキャンダルの体制に対する影響は先進民主主義国では研究が進んでいるものの、新興国の権威主義体制下での影響については十分な研究がなされていないため本研究の意義を見出すことができる。また、本研究の実施中に事例とするマレーシアで史上初の政権交代が起こっているが、本研究はその新しい展開についてもフォローしており、学術研究者だけでなく、一般社会に対しても最新の動向とともに知見を広げることが可能となっている。

研究成果の概要（英文）：This project researches the relationship between authoritarian regime and political scandal with the case study of Malaysia. The research reveals that influence of political scandal on the political regime depend on the framing of the scandal by political elites. In addition, social movements which continues in a certain period is necessary to make the framing work.

研究分野：政治学

キーワード：権威主義体制 政治的スキャンダル マレーシア

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

研究開始当初の背景として、先進国だけでなく、新興国においても汚職、職権乱用、私生活での醜聞が政治スキャンダル化して場合によっては既存の政治体制の不安定化をもたらす事態が散見された。しかし、政治的スキャンダルの影響を中心に据えて新興国の政治変動を明らかにしようとする研究は、本研究課題を構想した当初は十分になされていなかった。そこで本研究課題では、マレーシアの事例を対象にした政治的スキャンダルの発生のタイミング、関与するアクター、経緯、帰結などの項目をまとめ、民主化研究への貢献も視野に入れた研究を進めることを目指した。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、1980年代以降のマレーシアを事例として、権威主義体制の不安定化の原因を政治的スキャンダルの観点から明らかにすることにある。本研究では、これまで民主化研究が副次的にしか扱ってこなかった政治的スキャンダルが、体制を動揺させるうえでの重要な要因となっているとの仮説を設定し、事例データの収集と分析を通じて、政治的スキャンダルがいかにして権威主義体制に不安定化をもたらすのかを明らかにする。

### 3. 研究の方法

本研究では、マレーシアで権威主義体制の強化が起こった1980年代以降に起こった主要な政治的スキャンダルのデータを集めるとともに、その分析を進めていく。その際、時代背景や採取的な帰結や政治的スキャンダルの種類などに注目しながら、政治的スキャンダルと政治体制との関連性について明らかにする。特に、1980年代から1990年代の第一期マハティール政権期の政治的スキャンダルと、2000年代以降の政治改革が主要な課題になった時代の政治的スキャンダルとの比較に力点を置きながら分析を進めていく。

### 4. 研究成果

本研究を通じて1980年代以降のマレーシアにおける主要な政治的スキャンダルに関するデータベースを作成した。また、現代マレーシア政治に関する資料収集や関連する人物へのインタビューを実施することができた。

直接的な研究成果の一部として、マレーシアで史上初の政権交代が起こった2018年総選挙において、与党側の政治的スキャンダルがどのように野党勢力によって用いられたのかを分析した論考を既に執筆済みである。この論考は既に査読を通過しており、2019年8月には出版される予定となっている。また、今後の研究成果として、本研究で収集・作成したデータベースに基づく論文を現在執筆中であり、近いうちに学術誌への投稿を予定している。

間接的な研究成果として、マレーシアのセクシュアリティとスキャンダルに関する論考や社会運動の展開に関する論考などが既に発表されており、今後は本研究のデータをもとにこれらのトピックについても別の視点からみた研究成果を発表していく予定である。

### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

(1)伊賀司「マレーシアにおけるメディア統制と与党 UMNO の起源 脱植民地期のマレー語ジャーナリズムと政治権力」『東南アジア研究』55巻1号、39-70頁、2017年。

(2)Tsukasa Iga. 2017. "The Political Economy of Affordable Housing in Malaysia." *Kyoto Review of Southeast Asia*, Issue 23 (<https://kyotoreview.org/yav/affordable-housing-imalaysia/>)

(3)伊賀司「現代マレーシアにおける『セクシュアリティ・ポリティクス』の誕生 1980年代以降の国家とLGBT運動」『アジア・アフリカ地域研究』第17-1号、73-102頁、2017年。

(4)伊賀司「大方の予想外だったマレーシア史上初の政権交代はなぜ起こり、どこに向かうのか」『シノドス』(<https://synodos.jp/international/21725>)

(5)伊賀司「政権交代から100日を迎えたマレーシア 希望連盟政権下での民主化に向けた実績

と課題」『シノドス』(https://synodos.jp/international/21981)

(6)伊賀司「2018年マレーシア総選挙における希望連盟(PH)のメディア・コミュニケーション戦略」『社会科学』(同志社大学人文科学研究所)第49巻第2号、2019年8月発行予定。

〔学会発表〕(計5件)

(1)Tsukasa Iga, "The Spirits of LGBT movements in Malaysia (in Session 051, Queering Spirits in Real and Reel: Vignettes of Hope, Agency and Empowerment from Malaysia and Indonesia)," The Third Conference of the Association for Asian Studies (AAS) in Asia at Doshisha University (Kyoto, Japan) on July 25, 2016.

(2)伊賀司「マレーシアにおけるセクシュアリティの政治 - イスラーム化のなかの国家とLGBT運動」分科会D:東南アジアにおけるセクシュアリティの比較政治、2016年度日本比較政治学会研究大会(主催:日本比較政治学会、2016年6月26日:京都産業大学)

(3)Tsukasa Iga, "Re-Authoritarianing Malaysia? Political Scandals and Problems of Accountability in the Post-Mahathir Era," Korean Association of Southeast Asian Studies Annual Conference 2017 in Seoul National University (Seoul, Korea) on 27 August 2017

(4)伊賀司「東南アジアにおけるホモフォビアとLGBT運動」2018年度日本比較政治学会研究大会<分科会B「悪魔探しの政治学」>(主催:日本比較政治学会、2018年6月23日:東北大学)

(5)伊賀司「政治開放期マレーシアにおける都市住宅政策過程:BN体制下の住宅消費者運動の成功と限界」2018年度東南アジア学会第100回大会(主催:東南アジア学会、2018年12月2日:東京大学)

〔図書〕(計4件)

共編著

(1)外山文子、日下渉、伊賀司、見市建『21世紀東南アジアの強権政治 - 「ストロングマン」時代の到来』明石書店、2018年。

分担執筆

(2)Tsukasa Iga, 2016, "Malaysia in 2014: Crisis of the Opposition," Michelle Tan, Pongkwan Sawasdipakdi, Jittipat Poonkham (eds.) ASEAN Political Outlook 2015(Faculty of Political Science, Thammasat University), pp. 33-46.

(3)伊賀司「第四章ポスト・マハティール期の社会運動 ブルシ運動を中心に」中村正志編『ポスト・マハティール期マレーシアにおける政治経済変容』アジア経済研究所、59 - 72 頁、2016年。

(4)伊賀司「活性化した社会運動と市民社会の変貌 ブルシ運動による街頭デモの日常化」中村正志・熊谷聡編『ポスト・マハティール時代のマレーシア:政治と経済はどう変わったか』アジア経済研究所、173-212 頁、2018年。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：  
ローマ字氏名：  
所属研究機関名：  
部局名：  
職名：  
研究者番号（8桁）：

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：  
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。